

春はあけぼの 「枕草子」より

Text by 清少納言
Comp. by ヨガマット

(♩=78) A

Solo1(S)

Solo2(A)

Solo3(T)
はるはあ けぼの ようよう しろく なりゆく やまぎわ すこしあ かり

Solo4(Br)

Chorus

(♩=78) A

(♩=78) A C#m F#m

S.3
て むらさき だちたる くものほ そく たなびきたる

S.4
なつはよる

6 D A E D D

S.4
* つきのころ はさらなり やみもなお ほとるの おおく とびちがいたる また

11 A E C#7/E# F#m Em7 A

春はあけぼの

15

S.4

ただ ひとつ ふたつ など ほのかに うちひかりて ゆくもを かし

D#m7(b5) DM7 C#m7 F#m Bm7 Bm7/E

[B]

S.2

S.4

Cho.

あめ など ふる もを かし Uh

あめ など ふる もを かし Uh

[B]

A D/A A D/A D C#7

[C]

S.1

S.2

あき は ゆうぐれ ゆうひのさして やまのは いとちこ うなりたるに

twi - light uh

twi - light uh

[C]

F# F#/E B D C#7

春はあけぼの

27

S.1
から すのね どころに ゆく—とて みつ よ—つ ふ たつみ つな—ど と びいそぐさえ

S.2
ふ たつみ つな—ど

S.3
ふ たつみ—つな—ど

S.4
ふ たつみ つな—ど

Cho.
ふ たつみ つな—ど
ふ たつみ—つな—ど

D E/D C#m7 F#m D A D C#7 F#m /E D

32

S.1
あ われ— なり— まい—て

S.2
かり— など— のつ ら ね た— るが— いと

S.3
まい—て

S.4
かり— など— のつ ら ね た— るが— いと

Cho.
かり— など— のつ ら ね た— るが—
かり— など— のつ ら ね た— るが—

C#7 D F# D

春はあけぼの

36

S.1 ひいりはてて はた

S.2 ちい さく みえ るは いとを かし かぜのお と むしのね など

S.3 ひいりはてて

S.4 ちい さく みえ るは いとを かし

Cho. いとを かし かぜのお と むしのね など
いとを かし かぜのお と むしのね など

C#m7 Bm7 C# F# E E(5)

40 (♩=68)

S.1 ゆうべきにあらず ふゆはつとめて ゆきのふりたるは いうべきにもあ

B C# (♩=68) F# C# A#7/C*

45

S.1 らず しのもの いとしろきも またさらでも いとさむきに ひ

D#m C#m7 F# B#m7(5) Bm7 A#m7 D#m

春はあけぼの

62

S.1
むらさき だち たる

S.2
むらさき だち たる

S.3
て むらさき だち たる くものほ そく たなびき たる

S.4
むらさき だち たる

62 D A E D

『枕草子』作：清少納言
第一段

春はあけぼの。
やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。
月の頃はさらなり、闇もなほ、螢のおほく飛びちがひたる。
また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも、をかし。雨など降るも、をかし。

秋は夕暮れ。
夕日のさして、山の端いと近くなりたるに、鳥（からす）の、寝所（ねどころ）へ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛び急ぐさへ、あはれなり。
まいて、雁（かり）などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。
日入りはてて、風の音、虫の音など、はた、言ふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず。
霜のいと白きも、またさらでも、いと寒きに、火など急ぎおこして、炭持てわたるも、いとつきづきし。
昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶（ひおけ）の火も、白き灰がちになりて、わろし。

※楽譜の無断転載および許可のない転用、商業目的の利用は固くお断りしております。ご不明な点は作者にお問い合わせください。
※アレンジや